

対象年度		開催年月日	会場
事業名			

目的	事業の目的と概要(計画該当項目・公益目的事業の記入および、そこから位置づける内容)	計画該当項目			
		公益目的事業(番号と名称)			
事業開始年					
実施回数			実施内容の別	単発・繰り返し	
予算額	受益者負担額 支出		決算額	受益者負担 支出	

【事業成果記述】

		指標	評価内容				
			目標	実績	達成率		
量的成果	1			%		%	
	2						
	3						
	4						
	5						

		指標	計画と公益目的事業の目的・方針と照らし合わせて記載のこと	評価内容(良かった点・工夫した点・問題点・今後の課題など)
質的成果	1			
	2			
	3			
	4			
社会的成果	1			
	2			

	評価年度の状況	改善案・目標値の設定
担当者意見		

対象年度	24年度	開催年月日	会場
事業名	芸術文化の課外授業	平成24年10月～ 平成25年1月	市内小中学校

目的	事業の目的と概要(計画該当項目・公益目的事業の記入および、そこから位置づける内容)	計画該当項目	Ⅱ-3-⑥、Ⅱ-4-⑨		
		子どもの芸術活動を応援する、芸術文化の専門家と連携する			
		公益目的事業(番号と名称)	⑤人材育成・教育普及型事業		
事業開始年		平成17年			
実施回数		8年間(のべ48校)	実施内容の別		単発・ <u>繰り返し</u>
予算額	受益者負担額	¥0	決算額	受益者負担	¥0
	支出	¥1,500,000		支出	¥1,200,000

【事業成果記述】

		指標	評価内容					
			目標	実績		達成率		
量的成果	1	アンケート回収率	96.0	89.6	%	93.4	%	中学生のみアンケートを実施(以下同様)
	2	参加者数と参加者率	100.0	100.0	%	100.0	%	
	3	顧客満足度(アンケート内容から抽出)	88.7	90.1	%	101.6	%	満足層319人／回答者数354人
	4	チラシ活用率	—	—	%	—	%	作成なし
	5	ポスター活用率(ある場合)	—	—	%	—	%	作成なし
	6	○新規顧客獲得率	—	—	%	—	%	
	7	○リピート率(2回目以上)	—	—	%	—	%	
	8	新聞無料掲載数(記事取り上げ)	1	0	%	0.0	%	
	9	FM露出回数	—	—	%	—	%	

		指標		評価内容(良かった点・工夫した点・問題点・今後の課題など)
質的成果	1	参加者に対して、想定した価値・成果を提供できたか。質の確保・向上、専門家の関与はなされたか？	計画と公益目的事業の目的・方針と照らし合わせて記載のこと	【中学校】管弦楽団の講師も担当教員ともに生徒に向けて何をすればよいかを考えてもらえ、演奏コラボ・楽器体験方法の改善など毎授業振り返りをして1クラスづつ調整を行った。 【小学校】実施校がどの学校もクラス数が多かったため、3校のうち2校は演劇地域拠点契約事業に振り替えて実施し、また残り1校もベテランであるA劇団のB講師に加えて、出演のため滞在していた俳優2名を講師に迎えた。どの授業もメイン講師とサポート講師がおりこれまでよりも子どもケアに手が届き、質の向上をすることができた。
	2	ターゲットは適切に絞れたか？そのターゲットと実行委員に対して、想定した様に芸術文化の理解や、育成につなげる効果ができたか(教育的効果)		【中学校】参加生徒の満足度も高く、担当教員をはじめ学校から好評であった。 【小学校】学校教諭が演劇という分野についてご存知でないため、こちらから提案したものの中から選んでもらう形で内容を決めた。台本をもった芝居ごっこは6年生にとっては分かりやすく取り組みやすい内容のようであった。事後アンケートからもいつもとは違った子どもの姿を見ることができたということであった。
	3	公的資金投入の、目標設定の意義どおり実施できたか(事業の説明責任)		【中学校】中学生という多感な時期に、弦楽器の「体験」を通して音楽の楽しさに気づくきっかけを提供できたと考える。 【小学校】昨年度まで国語の授業の延長上のような内容としていたのを、演劇らしくし、演劇に親しんでもらうという目標達成にはより近づくことができた。子どもたちも自己表現を楽しんでいるようであった。
社会的成果	1	市域内への影響や成果と、情報を広げる工夫は想定したようだったができたか。		【中学校】例年通り、教育長の視察があったが、今年はC中学校で授業参観を兼ねて実施することができた。その結果、家庭でも当授業の話があったと担当教員からお話を聞くことができた。 【小学校】上述の通り。また想定外ではあったが、市議会議員の視察を受けることができた。
	2	市域外へ情報を広げる工夫はどのように出来たか。(波及性:広報宣伝の方法・外部やマスコミの取り上げなど)		【中学校】朝日・毎日新聞の音楽担当者に連絡を取ったものの、取材には至らなかった。 【小学校】演劇を題材にした授業の様子をプレスリリースの一部として発信された。

	評価年度の状況	改善案・目標値の設定
担当者意見	【中学校】教員も管弦楽団の講師も積極的で、授業ごとの振り返りを実施、次のクラスの生徒の特徴を事前に把握するなど充実した内容となった。また、昨年度から実施した楽器体験時のグループ分けも定着し、教員からも好評を得ている。 【小学校】昨年まで大多数行っていた「国語」授業の延長上から「芝居」をする方に内容をシフトしたが、これについては、募集時に打ち出している「演劇の課外授業」という内容にマッチしていて子どもたちもこれまでより満足している様子がうかがえて成功であったといえる。また、講師の人数をそれまでの1名体制から2名以上を必須としたが、これについても子どもたちと講師のかかわりが増え、雰囲気がよくなった。演劇については学校教諭自体ほとんどの方が未知の領域であるようで、ご希望としては「声を出す」ということが全校から出たがそれ以外はあまり希望を言ってもらえず、こちらからの提案を主体に内容を決めたが、結果は満足していただけた。	【中学校】授業内容については一定の形となっており、今後どのようにブラッシュアップしていくかが課題である。今後の課題のため、「教育とアート」の企画開発に有用な情報を現場教員のヒアリングを年間を通して積極的に実施していき、そのためにも各教員との繋がりは密にしていく。管弦楽団の講師においても過去の実績から向き不向きが判明しているの、子どものためにもこちらから希望を出して調整を依頼していく。 【小学校】平成17年度より芸術文化の課外授業を実施しているが、これまで応募校が定数または1次締切時には下回っており、その後のPRでなんとか達成する状態が続いてきた。今年度は、1次締切時で定数の3校の応募があったが、継続年数を考えるともつと需要があるべきであり、それぞれの授業において、質と満足度の向上を図ることで需要向上を目指したい。音楽の専門教諭と内容を作っていく中学校の課外授業と比べると、小学校教諭は演劇は専門領域ではないこともあり、学校の先生にあまり負担をかけずにいい授業を作ることがよい結果を出すことができるポイントではないかと考えている。